学　校　紹　介

鏡が丘特別支援学校

本校は、昭和40年４月に本県ではじめての肢体不自由養護学校として浦添市に開校し、今年（平成25年４月）で創立48年目を迎えます。

開校当時は、児童生徒数は83名、教職員数11名でした。現在は児童生徒数144名、教職員数173名の大規模校になっています。さらに同じ市内に分校もあります。

緑豊かで落ち着いた環境の中、職員・保護者・地域が一体となって、明るく楽しい学校づくりに努めるとともに、常に子どもたちの目線に立った教育実践と、思いやりと優しさを育む心の教育をめざしています。さらに地域の学校との交流教育及び共同学習の推進、いろいろな地域生活経験をするための校外学習、卒業後を見据えた就業体験等を実施しています。

現在、高等部は45名在籍しアーチェリー部員は６名です。平成４年から高体連に加盟し大会等に参加しています。部員は自己と向き合いながら日々練習し、大会等では健常者との交流を楽しみにしています。

学　校　紹　介

沖縄高等特別支援学校

○本校の紹介

本校は平成２年10月、県内では始めて、九州では２番目に早い高等部のみの養護学校として、うるま市田場の地に設立が認可されました。翌月の11月には、県庁内に準備室が置かれ、その５ヶ月後には開校を迎えました。開校準備に際しては、新学期までのわずか５ヶ月の間で、本校の教育理念の検討、各中学校へ入試要項の配布、校歌の作詞・作曲者の選定、校章、校旗の図案作成、制服の制定、入試の実施、そして最も重要な教育課程の編成等、管理者３名の方々の仕事は並々ならぬ激務であったと思われます。平成３年４月、どうにか新学期を迎えますが、校舎や寄宿舎の建設が間に合わず、入学式後は名護養護学校金武分教室を借りての授業開始となります。開校後も生徒の授業確保のために新たな苦労があり、ようやく９月には校舎が完成し、本格的な本校教育が始まりました。

あれから23年の歳月が流れました。開校当時からの“卒業後の社会自立や職業自立を目指す”という教育理念は、現在も脈々と受け継がれています。併せて全寮制を敷くことによって、寄宿舎生活を通して社会生活に必要なマナーやコミュニケーション力の育成を図るとともに、社会に出て後も身の回りのことは一人でできる自立教育を行ってきました。このように、本校教育の最大の特徴は、学部と寄宿舎が車の両輪のごとく歩調を合わせ、一人一人の生徒の成長のために絶えず連携を取り合う協働体制にあります。

他にも諸先輩方のご努力によって伝統となったものがあります。本校の校舎を囲む緑豊かに整備された教育環境は、先輩方がレンガ積みから植栽に至るまで汗を流して作った手作業によるものです。その伝統を受け継ぎ、現在も校庭には四季折々に花が咲き、平成21年11月には学校緑化コンクールで特選に選ばれ、県知事賞をいただくことができました。これもひとえに先輩方から引き継がれて来た努力の結果であります。

さて、本校は13年前に10周年記念式典が挙行されましたが、そのとき本校の校訓が出来ました。希望、敬愛、自立という校訓の中の、希望とは、将来世の中で役に立つ人間になるということが生徒の希望であると同時に親の希望でもあるという意味であり、敬愛とは、障がいのあるなしにかかわらずすべての人が互いを大切にする人権を重んずる心を表し、自立とは文字通り将来の社会自立や職業自立、目指すという意味です。その校訓を盛り込んだ「いつでも希望を持ち、自他ともに敬愛し、自立をめざす私たち」というキャッチフレーズが生まれ、それは記念事業の一つとして玄関前に大きく建立され、本校のシンボルとなっています。

近年、特別支援教育は大きな変革の中にあります。平成21年には沖縄県の管理規則の一部改正があり、県内すべての養護学校の校名変更が行われ、本校も沖縄高等特別支援学校と校名が変わりました。それに伴い、校歌の歌詞も一部変わりました。また、平成22年６月に県教育庁から本校の分教室設置案が出され、平成22年度４月から中部農林高校と南風原高校に分教室が置かれ、現在は新たに陽明高校分教室の設置準備が進められています。そのねらいは、障がいのあるものもないものも共に社会の中で学び合う共生社会へ向けたその布石となるものです。また、平成17年度より高体連加盟が承認されたことで、部活動が本格的に動き出し、部活動を通して生徒の体力向上と社会自立へ向けた心身の成長が見られるようになりました。このように、本校教育は、その基本理念をしっかり守りつつ、新たな目標に向かって邁進しています。

○本校の高体連加盟から現在に至るまで

- **平成17年度**
  高体連評議委員会にて高体連加盟の承認を受ける。高校総体（陸上・卓球）
- **平成18年度**
  高校総体（陸上・卓球）
- **平成20年度**
  高校総体（陸上）
  新人大会（陸上）
- **平成21年度**
  高校総体（陸上・卓球）
  ※水泳競技はオブザーバー参加
- **平成22年度**
  高校総体（陸上・卓球）
- **平成23年度**
  高校総体（陸上・卓球・サッカー）
- **平成24年度**
  高校総体（陸上・卓球）
- **平成25年度**
  高校総体（卓球）

学　校　紹　介

美咲特別支援学校

きれいに　咲こうよ　咲かそうよ

本校は昭和47年１月に琉球政府立中部養護学校として認可され、２月に設立準備事務所を美里小学校図書館に移す。翌月には美里公民館及び美里青年会館を仮設校舎として借用し、３月には「琉球政府立美咲養護学校」、５月10日に開校式挙行（小学部22名、中学部14名）その後、校名を「沖縄県立美咲養護学校」と改め、昭和51年には、高等部が設置される。

平成８年には校舎の全面改修を行い、施設・設備が一新され快適な学習環境になった。平成８年、９＋年度は、文部省指定の「障害児の就学指導に関する調査研究」協力校に指定される。平成12年１月には幼稚部設置及びプールの改築工事が決定、平成13年4月に念願だった幼稚部の入学式が挙行された。平成13年度の10月には緑化コンクール「準特選」沖縄県緑化推進委員より表彰を受ける。

平成21年４月１日校名を「美咲特別支援学校」と改める。現在は幼児・児童・生徒371名、職員190余名で「社会参加・自立・貢献」の出来る幼児児童生徒の育成と特別支援教育のセンター校として全職員で取り組んでいる。尚、本校の過密化解消のため、平成26年度４月１日、北中城村の沖縄ろう学校敷地内に分校の開校が決定した。本年度は「魅力ある分校作り」のために設置委員を設け、準備を進めているところである。

さて、本校は平成23年度に高体連に加盟し、レスリング競技個人の部、50kgに現高等部３年の大城徹剛が参加、新人大会においては県予選を突破し、平成23年度第47回全九州高等学校レスリング新人選手権大会に参加し活躍をしている。

加盟校の学校紹介

宮古特別支援学校

平成25年４月17日、ロワジールホテルにて開催された評議員会で全会一致で加盟を承認いただき感謝申し上げます。

特別支援学校としての加盟は、鏡ヶ丘、沖縄高等特支、沖盲、美咲特支についで５校目となります。

本校は、宮古島唯一の特別支援学校で、幼児児童生徒数、63名の創立37周年目の学校です。現在、高等部の生徒数は、重複障がい５名を含む24名で、ほとんどの生徒が、知的に障がいをもっております。先生方は、自立と社会参加を学校目標にかかげ、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かい指導に日々を頑張っております。

今回の加盟承認までの生徒達の活躍を紹介します。

平成24年９月宮古地区高体連主催の宮古地区秋季陸上競技大会へオブザーバーで参加し、高等部１年の西村亜依里さんが女子800mで３位の入賞タイムを出しました。宮古地区高体連の皆さんには、数年前からオブザーバーとして参加させていただき、生徒達の力と技を試す機会をいただいており、今回の加盟についてもこれまでの応援体制の賜物と心より感謝しております。

平成24年11月に開催された第24回沖縄県特別支援学校体育大会において、中学部と高等部あわせて、33個のメダルと11枚の賞状を獲得しました。特に顕著な活躍が、高等部１年の西村亜依里さんの代表女子800mでの大会新記録での優勝、さらに代表女子400mRにおいても大会新記録で優勝しました。

また、平成25年２月に開催された学校代表選手が７区間（男子５名、女子２名）で強健を競う第21回沖縄県特別支援学校駅伝競走大会において、高等部が念願の初優勝を果たしました。昨年度まで、この大会を18回も優勝している沖縄県高等特別支援学校に、１秒差で逃げ切りゴールしました。

生徒達は、日頃の部活動で、『くいのない走りをしよう』を合い言葉に、お互い切磋琢磨しながら頑張りました。記録会でライバルに負けたと涙したり、今日は調子いいから自己ベストが出たと喜び、まさに、小さな行いを一つひとつ根気よく積み重ねてきました。また、教職員との駅伝対決では、必死になって向かっていきました。先生方もまけるものかと頑張りました。余談ですが、力を持った先生方が揃ったということもありますが、こういうこともあり平成24年度沖縄県教職員駅伝競走大会では、先生方も初優勝しました。感動でした。

さて、そのような昨年度の生徒達の活躍が認められ、今回の加盟が承認されたものと思います。

加盟承認について、広くマスコミにも取り上げてもらい、さらに、琉球新報社からは、特別な取材依頼がありました。平成25年５月31日付けで『夢舞台駆ける　県総体初出場宮古特支２年　西村亜依里(陸上)』の見出しで紹介していただきました。

西村亜依里さんは、沖縄県総合運動公園陸上競技場で開催された県高体連の総合開会式へはじめて参加しました。そして、陸上競技の女子800mへ出場しました。予選３位でしたが決勝進出はなりませんでした。しかし、はじめての大舞台にもかかわらず、多くの同世代の高校生と共に技を競うことができ、自己記録へあと４秒のところまで頑張ることができました。もうひとつの大きな成果は、宮古高等学校の陸上部の皆さんが合同練習に入れてくれて一緒になって取り組めたことです。感謝です。大会を終えての感想は、『だいず緊張した。でも楽しかった。また頑張りたい』と話していました。

今、特別支援学校では、「障害者の権利に関する条約」や平成23年に改正された障害者基本法等の趣旨を踏まえ、共生社会の形成に向けた『インクルーシブ教育システムの構築』というのが話題の中心になっています。障がいのある生徒も障がいのない生徒も同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確で応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であるとしています。まさに、今回の出来事は、その大きな一歩となると確信しております。

多くの課題もありますが、一人一人の能力や特性を引き出し、生徒の将来に繋げていきたい、また、豊かな人間性を育みたい、さらには、ふれ合うことでお互いに成長していけたら等、多くの思いを胸にこれからも、力のある生徒達を参加させていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

学　校　紹　介

沖縄盲学校

1．本校教育の特色

沖縄盲学校は南風原町兼城にあり、視覚に障害がある（全盲及び弱視）幼児・児童・生徒が在学しております。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準じた教育を行うとともに、まったく見えない人だけでなく、その人の視力の程　度に合わせた教育を行い、視覚の障害に基づく種々の困難を　改善・克服し、積極的に社会参加・自立する社会人を育成するための教育を行っています。

高等部には、普通科と専門教育（あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、灸師の免許取得のため）を主とする保健理療科、理療科が設置されており、経済自立を目指した職業教育　が行われています。

また、本校においては視覚に障害がある方の『教育相談』も適宜行っており、乳幼児から中途失明の成人の方の相談に応じています。

なお、学習内容の１つとして本校では視力の弱い方のために音声によるパソコン指導も取り入れております。

2．沿革概要

大正10年　沖縄訓盲院創設
昭和18年　県立盲聾唖学校となる
　　26年　沖縄盲聾唖学校（首里石嶺）
　　29年　琉球政府沖縄盲聾唖学校
　　34年　盲、ろう分離
　　琉球政府立沖縄盲学校
　　47年　沖縄県立沖縄盲学校（祖国復帰）
　　56年　新校舎竣工、移転（南風原町兼城）
平成24年　創立91周年（新校舎改築工事開始）

3．本校の教育目標

幼児児童生徒個々の障害の程度や段階に応じた適切な教育をおこない、障害による学習・生活上の困難を改善・克服し、主体的に学び、生活する態度、意欲を養い、健康でたくましく、心豊かな生きる力を身につけ、自立し社会参加する人材の育成を図る。

4．教育目標達成のための基本方針

（1）基本的な生活習慣の確立を図る。
（2）自ら学び、自ら考える力を育成する。
（3）健康で安全な生活を実践する能力・態度を育てる。
（4）一人一人の可能性を見つめ、各人の能力及び適正等の伸長を図る。
（5）社会の変動を見極め、正しい判断と理性的態度で対処できる能力を育てる。
（6）豊かな心を身につけ、主体的に実践する能力・態度を育てる。
（7）郷土の文化や伝統を重んじ、国際的な広い視野に立って思考する能力を育てる。

5．外来治療室について

あん摩・マッサージ・指圧、はり、灸は、健康の維持増進・労働力の回復や病気の治療などに大きく貢献し現在でも医療の一翼を担っています。

県内唯一の盲学校では、完備された施術施設を整え、授業の一環として近郊の外来患者を受け入れています。臨床の実習を通し、より多くの症例を体験し、将来あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、灸師として社会に貢献できる力量を身につけるよう指導を行っています。（1･2年で基礎的な理療の実技及び実習を終えた３年生が、臨床にあたります。）

6．本校の体育系部活動の足跡

本校の運動部は視覚障害者の球技スポーツであるフロアーバレーボール、グランドソフトボール、STT（サウンドテーブルテニス）を中心に活動に取り組んでいます。平成元年には九州盲学校体育大会フロアーバレーボールで優勝の実績があります。

2011年には田原光君（H25．3月卒）がジャパンパラリンピック陸上競技大会T13クラス100mで１位。その年の沖縄県児童生徒等表彰式（スポーツ部門）で表彰されました。さらに同年、沖縄県高等学校体育連盟に加盟することができ健常者とスポーツを通して切磋琢磨することができるようになりました。

2012年にも田原光君は第12回全国障害者スポーツ大会（ぎふ清流大会）において100m11秒95（第2位）、200m24秒81（第２位）のタイムを出し輝かしい成績を残すことができました。

第57回沖縄県高等学校陸上競技対校選手権大会兼南九州地区予選大会では初めて４×100mリレー（比嘉勇樹、與儀元気、山里智樹、田原光）に出場。53秒11のタイムを出し、盲学校の日本記録を更新することができました。

今後も生徒の可能性を引き出し多くのスポーツにチャレンジできる部活動にしていきたいです。